

# あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

あけましておめでとうございます

旧年中は大変お世話になりました

本年もよろしくお願ひ申し上げます

真淵翁は、正月にあたり歌の心得を次のような文章で表しました。

享保八年 和歌会留書

春たち人の心若かへり、此道をわけていよいよ絶えさらまく  
なとたれたれもすすみ渡るころさし見え侍りぬこそいひか  
わしたることくに、まめやかにすなほならん事をおもひてつ  
たなくこはからん心さしあらは、此言の葉にしもやはらくへ  
き也。...

(春が立ち上がると人の心が若返るので、この道をとわりわけ立ち止  
まってはならない。誰しもが進み行く志が見えませんと言いつけて  
しまいが、常に素直なることを思い、恐がらない志があれば、この  
言葉(歌)の意味も柔らいでしまふものだ。・・・)

享保八癸卯年會始 正月二十一日

早春山(そうしゅんのやま)

みよし野や 雪も霞て 春越る

山は青根と さらに成ぬる

(吉野山は雪もしだいに解け始め春を迎えているようだ。  
山はいよいよ青根となるのだろうか)

竹為友(たけをともとなす)

窓の竹 起きふし友と なつ冬に

み雪をめてみ 風を涼しめ

(春の窓辺の竹は友となり、冬には雪を愛で風を涼しく  
してくれる)

賀茂政藤(二十六歳)

## 生誕祭・記念講演 のご案内

真淵は、元禄10年(1697)3月4日、遠江国敷智(ふち)郡浜松庄伊場村(もと岡部郷)で誕生しました。真淵の功績を称え「生誕祭」を斎行いたします。「生誕祭」終了後に講演会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

日時 2018年3月4日(日)

生誕祭 10時～10時30分

場所 縣居神社

記念講演 10時45分～11時45分

場所 賀茂真淵記念館

※講師は、当会特別顧問静岡文化芸術大学学長 横山俊夫氏を予定しております。

※講演会は限定50名になりますので、人数に達し次第、申込を締め切らせて頂きます。

【お問合せ】TEL/FAX:053-453-3401

## 賀茂真淵翁を知ろう(6) 手習いの師 杉浦真崎

### 杉浦雅子(雅名真崎(まさき))

十一歳になった真淵は、諏訪神社の神職杉浦国頭(くにあきら)の妻・雅子について手習いを始めた。

雅子は、「国学の四大人」で、真淵の師である荷田春満(かだのあずまろ)の姪。

春満は、伏見稲荷神社の神職の子。幕府の下問に応じ、しばしば江戸に出、国学の創始者として名を挙げている。春満の江戸神田での歌会に入門したが、二十六歳の杉浦国頭。諏訪神社社殿の修理を幕府に願ひ出るために江戸に来ていた。春満は、神道家として立派な国頭を気に入り、妹の娘雅子を嫁がせた。

雅子は十五歳で嫁に来る。詠歌に秀で和学の素養もあり、挙措優雅な美しい人だった。真淵を導いたのは十八歳。二十七歳で雅名を真崎とした。名字の杉浦を音だけ漢文風にとると浦ヲ過ギルと岬になるの意で「真崎」とし、婚家との一体感を示したとされる。言葉によって自分の生き方を示す仕方は真淵に大きな影響を与えた。

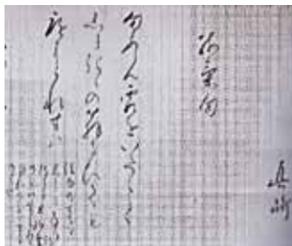
### 杉浦国頭(くにあきら)

真淵は勉強が進むと真崎の夫国頭にも詠歌・古典を学ぶようになり、国頭が主宰する和歌会などに参加するようになる。

浜松諏訪神社の神職のかたわら、浜松の郷土の歴史や名勝、風俗、史話、伝承などを、旧家を訪ね古老たちの口碑を丹念に取材して「曳馬拾遺(ひくましゅうい)」を著している。三十六歳。

そして、さまざまな文献の研究から浜名湖周辺の文学地誌として「振袖考記(ふりそでこうき)」を出している。平安、鎌倉、室町、江戸各時代の地誌や紀行、歌集を集めている。

### 真崎の詠草と真淵の添削



残菊句 真崎  
句ふらん霜をいたしく  
しらさくの翁さひても  
庭にかれすは

結句のてにをは  
愚意に承り得  
侍らず且残菊  
の意はおもしろく  
句ひの意はすく  
なくや



五社公園の「杉浦国頭邸址」

## 浜松近郊の真淵歌碑 湖西市新居



新居図書館入口 平成2年3月建  
新居町教育委員会

真淵が田安宗武に仕える前の45歳ころの作。冬のころ…の題詞に答えて万葉調に詠んだ。

冬  
の  
こ  
ろ  
遠  
き  
と  
こ  
ろ  
を  
お  
も  
ふ  
歌  
を  
人  
々  
よ  
み  
待  
る  
に  
ふ  
み  
わ  
け  
て  
今  
も  
み  
て  
し  
か  
遠  
つ  
あ  
ふ  
み  
濱  
名  
の  
は  
し  
に  
ふ  
れ  
る  
初  
ゆ  
き  
満  
ふ  
ち

**濱名の橋** 浜名湖南岸が、決壊して海とつながるまで、新居から白須賀方面の海岸まで大きな川が流れていた。そこに架かっていたのが濱名橋で、約170年もある立派な橋だった。中世期、藤原定家・為家の親子そして源頼朝などが歌枕として詠んでいる(歌碑が新居町に建つ)。

歌人であり、万葉集の研究家でもあった真淵が、多くの歌人が詠み伝えたこの橋を題材とした作品を残したことに、時を超えたこのイメージの広がりやロマンを感じる。遠江八景「浜名暮雪」より

### 遠江八景

静岡県が平成26年3月選定  
浜名暮雪・弁天夕風・潮見晴嵐  
瀬戸夜雨・寸座落雁・細江帰帆  
館山秋月及び五山晚鐘  
(方広寺・龍潭寺・大福寺・  
摩訶耶寺・初山宝林寺)



### 案内看板を設置しました

バス停「鴨江坂上」から縣居神社に至る道に4カ所。  
国道号(雄踏街道)浜松方面行きに5カ所。

「縣居神社」と「賀茂真淵記念館」の2種類の看板があります。



### 新年祭が斎行されました



2018年元旦、縣居神社にて新年祭が斎行され、たくさんの方に御参拝頂きました。「立志の丘」からは、今年も美しい初日の出を拝むことができました。

### 本居宣長記念館との交流



平成29年11月29日、松阪「本居宣長記念館」との交流が行われました。リニューアルした記念館で、館長 吉田悦之氏より、宣長(1730～1801年)の生涯についての説明をいただきました。また、展示品等を見ながら、宣長の人生観、学問観に迫る説明をいただきました。